

古文書学Ⅱ

科目ナンバリング JPH-246
選択 2単位

山本 英貴

1. 授業の概要(ねらい)

本授業は、江戸時代の「くずし字」で書かれた古文書を読めるようになるための基礎トレーニングを行うことを目的とする。史料について、まずは古文書学Ⅰからの継続で江戸時代初期のキリシタン関係文書、なかでも島原の乱に関わる古文書を取り上げる。その後は現在の八王子市域に残される古文書を中心に、土地の売買証文など読みやすい古文書から開始して、最終的には八王子千人同心の書状などを取り上げる。さらに、各史料が当時どのような意図をもって作成されたのか、史料が有する機能や様式、作成時の歴史的背景などについても解説する。

2. 授業の到達目標

江戸時代の古文書で頻出する語句や言い回し、文書の形式に慣れる。
史料に返り点を付けられるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

中間テスト(50%)
期末テスト(50%)

4. 教科書・参考文献

教科書

根岸茂夫・佐藤孝之・安池尋幸編 『新編 古文書解読字典』(1993年) 柏書房

5. 準備学修の内容

6. その他履修上の注意事項

古文書学Ⅱのみの履修も可能であるが、古文書学Ⅰを履修しておくことが望ましい。

7. 授業内容

- 【第1回】 本授業の説明
- 【第2回】 キリシタン関係の古文書を読む(毛利家文書)
- 【第3回】 島原の乱の古文書を読む(島津家文書)
- 【第4回】 島原の乱の古文書を読む(島津家文書・中川家文書)
- 【第5回】 奉公人請状を読む
- 【第6回】 屋敷売買証文を読む
- 【第7回】 老中の日記を読む(酒井家文書)
- 【第8回】 中間テストとまとめ
- 【第9回】 大名家の古文書を読む(津軽家文書)
- 【第10回】 裁許裏書絵図を読む
- 【第11回】 起請文を読む
- 【第12回】 付箋を読む
- 【第13回】 遊女屋の広告文を読む
- 【第14回】 八王子千人同心の古文書を読む
- 【第15回】 テストとまとめ